

## 普通期水稻（元気つくし・ヒノヒカリ）管理情報 NO.2

### 1. 生育概況

7月上中旬の気象は平年と比較して、平均気温は高く、降水量は少なく、日照時間は多くなりました。

7月23日の現地生育調査の結果、平年に比べ茎数は同等で生育は順調でしたが、スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）の食害が目立つほ場がありました。また、イネカメムシが一部ほ場で多くなっていますので、出穂期の防除を徹底しましょう。

品種	田植時期	穂肥目安時期 (出穂前 20~18日)	出穂期の目安 (平年)
元気つくし	6月 9日	7月 27~29日頃	8月 16日頃
	6月 16日	7月 30日頃~8月 1日頃	8月 19日頃
	6月 23日	8月 1~3日頃	8月 21日頃
ヒノヒカリ	6月 9日	8月 3~5日頃	8月 23日頃
	6月 16日	8月 5~7日頃	8月 25日頃
	6月 23日	8月 8~10日頃	8月 28日頃

### 2. 穂肥

基肥に「緩効性一発肥料（LP2000、有機特栽米エムコート 077号等）」を施用した場合は穂肥の必要はありません。ただし、葉色が極端に薄い場合は、プラザにご相談ください。

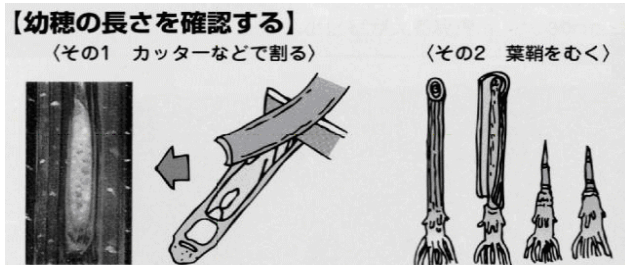
基肥に「速効性肥料（くみあい化成ベスト 444、有機特栽米基肥 017号等）」を施用した場合は下表を参考に穂肥を施用してください。

品 種	穂肥の目安				肥料 及び 施用量 (①~③のいずれかを選択して散布)
	葉色	幼穂長 (mm)	出穂前 日数	施用時期	
元気つくし	3.5 ~ 4.0	2~5	18~20日	生育概況の 表を参照	①NK化成2号：1回目 10kg/10a 2回目 10kg/10a (※1回目の施用から7日後頃に、2回目を施用) ②エムコート206ワンショット：15kg/10a ③有機特栽米追肥 047号：30kg/10a
ヒノヒカリ	3.0 ~ 3.5				①NK化成2号：15kg/10a ②エムコート206ワンショット：13kg/10a ③有機特栽米追肥 047号：23kg/10a

※なたね油粕を使用する場合は、施用時期を上記目安より 7~10日早め、施用量は元気つくし 50kg/10a、ヒノヒカリ 45kg/10a とします。

#### ★穂肥施用のポイント

- ・右図を参考に、各ほ場で幼穂長を確認して下さい。
- ・ほ場の地力・水稻の葉色により、穂肥の施用時期・施用量を調整して下さい。
- ・葉色が濃いほ場（4.0以上）は、倒伏の恐れがありますので、穂肥の散布時期を遅くする、または施用を止めましょう。



### 3. 水管理

下表を参考に水稻の生育にあわせて水管理を実施してください。

タイミング	水管理	ポイント
中干し後~穂肥の時期	間断かん水	湛水→自然落水→湛水の繰返しを行いましょ。う。
出穂前後 1 週間	湛水	生育期間で一番水が必要な時期のため、水を切らさないようにしましょ。う。
出穂 1 週間後以降	間断かん水	この時期の根の活性が登熟に大きく影響するため、水を溜めっぱなしにしないようにしましょ。う。

#### 4. 病害虫防除

下記によりいずれかの体系で必ず防除してください。また、薬剤防除のほか、斑点米カメムシ対策として、出穂 14 日前の畦畔除草を徹底しましょう。

##### 【基幹防除】

対象病害虫	防除適期	体系・農薬名	使用量(10aあたり)	使用時期
いもち病 紋枯病 ウンカ類 カメムシ類	出穂期～ 穂揃期	粉 ダブルカットパリア トホソ粉剤3DL	3～4kg	穂揃期まで
		液 (3剤混用) ダブルカット70アブル モンセイ70アブル イクスト70アブル	〔希釈水量 140ℓ〕 140mℓ (1,000倍) 93mℓ (1,500倍) 70mℓ (2,000倍)	穂揃期まで 収穫 21 日前まで 収穫 7 日前まで
		粒 (どちらかを散布) ゴウツェンスター-粒剤 ワイドパソチ豆つぶ	3kg 250g	<u>出穂 5 日前まで</u> (但し、収穫 45 日前まで) 収穫 35 日前まで

※ゴウツェンスター-粒剤の使用時期には、十分注意して使用するようにしましょう。

##### 用語の説明

「出穂期」：全茎数の40～50%が出穂（止め葉の付け根から穂先が出現）した日  
「穂揃期」：全茎数の80～90%が出穂（止め葉か付け根から穂先が出現）した日

##### 【補正防除】

基幹防除のみでは病害虫の発生が抑制できない場合は、栽培こよみ掲載の補正防除を検討しましょう。

特に近年、増加しているイネカメムシは水稲品種にかかわらず収量・品質に大きく影響を及ぼしているため、ほ場を十分確認し、発生が認められた場合は防除を実施しましょう。

##### 《イネカメムシについて》

特徴	・成虫の体長は 12～13mm、幅 5～6mm で体色は茶褐色
生態	・雑木林等の越冬地から出穂前後の水稲に飛来し、水稲穂を吸汁 ・出穂の早い品種から順に遅い品種へ移動し、被害を及ぼす
被害	・出穂期に被害にあった場合、不稔籾が発生し収量が低下 ・乳熟期に被害にあった場合、斑点米が発生し品質が低下
対策	・「 <b>出穂期</b> 」と「 <b>出穂期の 1 週間後</b> 」の <b>2 回防除が基本</b> ※粒剤は効果発現に時間を要するため上記の 1 週間前に施用 ・防除薬剤は「 <b>エクシード剤</b> 」か「 <b>スタークル剤</b> 」を使用

**発生注意！**



イネカメムシ

※粒剤は粉剤、液剤よりも 1 週間程度早めに散布しましょう。

※スタークル剤（粉剤・液剤）を散布する場合は、ミツバチへの危害防止のため、稲の開花期の散布は避けてください。

##### 農薬安全使用のポイント

- ① 散布前は農薬ラベルを確認しましょう
- ② 散布時は近隣作物への飛散に気をつけましょう
- ③ 散布後は散布器具を洗浄しましょう
- ④ 防除履歴を記帳しましょう
- ⑤ 散布作業は暑い日中を避け朝夕の涼しい時間帯に行いましょう